

お試し移住

お試し移住は、島にある空き家を活用して移住希望者の方に1週間程度暮らしていただき、島での生活を体感してもらう取り組みです。今年度は、津堅島のお家を使わせていただき、11月中旬から2月中旬まで開催する予定です。集落散策や行事参加などさせていただく事もありますので、ご協力の程どうぞよろしくお願い致します。



新型コロナウイルス感染症対策一例

- 新型コロナウイルス感染症対策：
お試し移住実施に係るガイドライン作成
- 消毒やマスクの徹底
- 開催前後2週間の参加者の検温及び健康観察の実施



なんでも聞いて!

空き家活用の大先輩

空き家オーナーの声



名護盛徳 さん(宮城島)

2019年から8組の滞在受け入れをしてきました。

空き家を貸し出すきっかけは?

そのままにしておくよりは活用したかった。放っておいたらカビたり色々痛むだけだからねー。

仏壇あるままで大丈夫?

全然そのままで大丈夫! 毎月1日と15日は仏壇見に来るからねっていう約束で貸し出すさー。

修繕とか費用かかる?

うちは屋根の雨漏り補修くらいしかしてないよ。昔からのフール跡もそのままにしているよ。

受け入れるのが不安...

最初に島人に挨拶する、区の草刈り行事などに参加するなど、島での暮らし方を教えるさー。あとは宿泊のルールブックを準備しているね。ゴミ出しの日とか何かあった場合の連絡先とかを載せているよ。ルールを双方でちゃんと確認するから安心だね。



空き家をそのままにしている方へ「ほっといたら腐れちゃうよ、もったいないよ」と名護さんは語ってくれました。

記事:真鶴/デザイン:小林

お問合せ
連絡先



PROMOTION URUMA
一般社団法人プロモーションうるま

TEL/098-923-5995 (担当:田中、西貝、小林、森田)

しましま通信

2021年

11月号

Autumn

懐かしい未来があるイチチヌ島々

うるま市立彩橋小中学校の小学6年生で「ごみ拾い隊」を結成し、平安座区の海岸でごみを拾いました。子どもたちでポスターをつくり、呼び掛けに応じた80人以上の方も参加して、地域をきれいにしようと総勢約100人が汗を流しました。



地域の海を守ろう! 『4島ピカピカクリーン大作戦』

彩橋小学校6年1組ごみ拾い隊

発行:(一社)プロモーションうるま

うるまワタクシプロジェクト

※「ワタクシ」は自分自身の起業プロジェクト、そしてウチナーグチで「へそくり」という2つの意味が込められています。

10月から第2期スタート!

ワタクシプロジェクトは、島しょ地域を舞台に新しいナリワイづくりに本気で挑戦したい人とことん応援する、伴走型支援の起業(しごとづくり)スクールです。第2期は7組の方が参加しています。

2期生の様子をお伝えする前にまずは1期生のその後をご紹介します!



シリーズ 1期生 紹介

『人々を笑顔にする動画づくり』

カメラマン・映像作家/塩谷大輔さん(LIFESMILE合同会社) <宮城島在住>

塩谷さんは、受講者全員がワタクシプロジェクトで最初に受ける「あなたインタビュー」と、伴走者のコンサルティングの組合せがすごく良かったそうです。なぜ映像制作が好きか?などの思いの源泉を絵や文字で見える化した後、「映像制作を通して「自分らしさを発揮するきっかけを創り出す」ことで人々を笑顔にする」という企業理念を定めることができたそう。今では登録者数32万人超えのYouTuberや大手企業からも依頼を受けてCMなどの映像制作業務に取り組んでいます。島しょ地域のメンバーの一員として地域貢献をしていきたいという塩谷さん。今後は島のことを紹介する映像も作って発信したいと意気込んでいます。



シリーズ 1期生 紹介

『芭蕉をもっと身近に ウバサガラへの想い』

ウバサガラ作家/春日清子さん(芭蕉布こもれび工房) <平安座島在住>

照間にある「芭蕉布こもれび工房」にて芭蕉布の作品を製作・販売をしている春日さん。東京のわしたショップや百貨店に出展し芭蕉布の魅力を発信するなど精力的に活動しています。糸芭蕉からとれるウバサガラは通常廃棄されるものですが、バッグや草履などの工芸品を作ることができるしっかりした繊維です。現在その活用方法を模索し、一緒に事業をする仲間を募集中です。「芭蕉布は高価なもので手が出ないという方も多い。ウバサガラならもっと身近で手軽に普段使うことができる。ゆくゆくはうるま市の特産品になれたらいい」と春日さん。今後はウバサガラを使った工芸品製作や製作講習会の開催等を通して活用の幅を広げ、地域の人の生業づくりにも寄与したいと考えています。



旧浜中学校は令和4年春(予定)より、
浜比嘉島地域交流拠点施設として
生まれ変わります。



本施設は情報通信技術(ICT)を活用した多様な働き方の推進を図り、関係人口の創出及び地域の交流拠点とすることを目的に設置します。2・3階にコワーキングスペース、レンタルオフィス、シェアオフィス及び利用者向けの宿泊機能を備えます。1階の多目的ホールと調理室はこれまで通りで、技術室を売店としてリニューアルする予定です。令和4年2月まで改修工事期間となります。浜区の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

生徒のワクワクが止まらない!

インターネットを活用した授業開始

うるま市は小中学校の全校生徒に1人1台のパソコンを準備。2020年4月から伊計島にあるN高等学校・株式会社rokuyouの連携により、ICT(※インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジーの略→インターネットを使ったコミュニケーション)を活用したユニークな取組みが始まりました。コーディネーターの(株)roku you代表、下向依梨さんにお話を伺いました。



どんな授業?

島しょ地域(彩橋中、津堅中、与勝第二中)の希望した中学生に向けた「ネット部活」と中学校1年生に向けた「ネット授業」を実施しています。ネット部活では島嶼地域の中学生だけでなくN中等部の生徒と共に、マイクラフト上で文化祭を実施するというミッションに取り組みました。

生徒の反応は?

「他の地域の、しかもユニークな同世代と触れ合うことは貴重で、毎回とてもワクワクする」という声も。

どんな効果が?

同級生が少ない、人間関係の固定化だけでなく「きっかけの格差」もあると言われている島しょ地域ですが、ICTを活用することで協働を通じた創作活動に取り組むなど社会スキルを高める機会も多く担保できるので、島しょ地域がこれまで抱えてきていた閉鎖性、多様な機会・選択肢の担保という課題を乗り越えられる可能性は大いにあります。知識詰め込み型から課題解決型の教育へと変化している時代。どこに住んでいても学び、成長の機会の差がないよう、うるま市も力を入れています。



子どもの教育が充実することで島嶼地域での暮らしも実現可能になって、移住者増にもつながります。